

昭和45年度ミカン関係除草剤・生育調節剤

試験成績概要

農林省園芸試験場興津支場 広瀬和栄

46年1月22日東京において検討会が表記した。
 の題目で行なわれたので、「植調」誌上を借り個々の薬剤について若干の説明を加えると次のようである。薬剤の成分などについては第2表に示す。

A ミカン関係除草剤

第1表の通りのように判定と使用基準を決定

第1表 昭和45年度ミカン除草剤審査判定表

薬 剤 名	新規 継続	前年 の判 定	判定	樹 種	薬量/10 アール	処理方法	効果の 遅 速	抑草 期間	有効草種	処理上の注意
DCPA・NAC (ワイダック水和)	新		実継	温州	1.5kg	生育期 春夏	速	50	ハコベ、ヤエムグラ、スズメノテッポウ、メヒシバ	低濃度の再検討
ワイダック乳+o i I	新		実継	〃	2ℓ+ 0.3%	〃 〃	〃	40	〃	同 上
DCPA・XMC (CH-693-E)	継	継	実用	〃	1.5~2ℓ	〃 夏	〃	50	〃	
DCPA・MTMC (T A W - 2)	継	継	実用	〃	2ℓ~3ℓ	〃 夏	〃	50	〃	
サイプロミッド	継	継	実継	〃	2~3ℓ 0.3%	〃 夏	〃	50	〃	o i Iの使用 を前提として
P P - 4 9 3	新		中止	〃						
アメトリン (ゲンバックス20)	新		実継	〃	1.5ℓ	〃 夏	遅	50	〃	低濃度の再検討
N K - 1 3 8 4 9	新		中止							
D C M U ゾ ル	新		継?							
S W - 7 0 0 6	新		中止							
ターバシル (シンパー)	継	継	実継	ナツダイダイ	300~ 150	〃 夏1回	遅	60	〃メヒシバ	砂壌土での薬 害の検討
DCMU・ターバシル (EH-275)	新		実継	温州ミカン	300	〃 〃	〃	60	〃	低濃度の再検討
DCMU・ターバシル (HOK-536)	新		〃	〃	300	〃 〃	〃	〃	〃	同 上

薬 剤 名	新規 継続	前年の 判 定	判定	樹 種	薬量/10 アール	処理方法	効果の 遅 速	抑草 期間	有効草種	処理上の注意
M & B 9 0 5 7	継	継	継?							
S S H - 3 1	継	継?	中止							
(DCBN・ターバシル) MB-217水和	新		実継	温州ミカン	1~1.5kg	5月 生育期	〃	60	ヨモギ、ヤブカラシの生園(メヒシバ)	砂壤土での薬害の検討
(DCBN・ターバシル) MB-217粒	新		実継	〃	8~10kg	5月 〃	〃	90	広葉宿根草混生園	同 上
A - 3 5 8 7	新		継							
A - 3 5 8 8	新		継							
F - 8 2	継	継	実継	温州ミカン	1m ² 5~10g	5月~6月刈 取後処理	〃	—	ススキ、ササ、マササ、メダケ、チガヤ、(ハマス)	温州ミカンの使用部での使用は不可 処理時期の検討
N C - 3 0 6	新		継							

除 草 剤 第 2 表 ミカン園用除草剤成分一覧表

薬 剤 名	有 効 成 分 及 含 有 率	関係メーカー
ターバシル・DCMU (HOK-536 水和剤)	ターバシル; 5-クロロ-3-Tert-ブチルウラシル 30% DCMU; 3-(3,4-ジクロロフェニル) 1,1-ジメチルウレア 45%	北 興 化 学 工 業
ターバシル・DCMU (EH-275 水和剤)	ターバシル; 前掲 40% DCMU; 前掲 40%	デ ュ ボ ン
DCPA・XMC (ダイミックス CH-693-E)	DCPA; 3,4-ジクロロプロピオンアニリド 25% XMC; 3,5-キシリル-N-メチルカーバメイト 10%	中 外 製 薬
S S H - 3 1	未公開; A剤 40%液剤, B剤 40%乳剤	シ オ ノ ギ 製 薬
M & B 9 0 5 7 液	メチル4-アミノベンゼンスルフォニルカーバメイト 40%	シ オ ノ ギ 製 薬
DCPA・NAC (ワイダック水和剤)	DCPA; 前掲 50% NAC; 1-ナフチル-N-メチルカーバメイト 10%	ワイダック普及会 (保土谷化学工業)
DCPA・NAC+C-oil (ワイダック乳剤+C-oil)	DCPA 25% NAC 5% C-oil 97%	ワイダック普及会 (保土谷化学工業)
ターバシル (シンバー水和剤)	前 掲 80%	デ ュ ボ ン
SW-7006 水和剤	未公開 50%	三 共
DCMU ゾル	前 掲 30%	三 共
ターバシル・DCBN (ME-217 水和剤)	ターバシル; 前掲 8% DCBN; 2,6-ジクロロチオベンズアミド 72%	丸 和 物 産
ターバシル・DCBN (MB-217 粒剤)	ターバシル; 前掲 0.8% DCBN; 前掲 7.2%	丸 和 物 産
サイプロミッド乳剤	3',4'-ジクロロサイクロプロパンカルボキシアニリド 20%	東 陽 通 商 日 本 ソ ー ダ
PP-493 液剤	3,5-ジクロロ-2,6-ジフルオロ-4-ヒドロキシピリジン 20%	1 C 1 日 本 農 薬 武 田 薬 品 工 業
ア メ ト リ ン (ゲザボックス乳剤 20)	2-メチルチオ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ- S-トリアジン 20%	日 本 化 薬
NK-13849 乳剤	未公開 20%	日 本 化 薬

薬 剤 名	有 効 成 分 及 含 有 率	関係メーカー
ア メ ト リ ン (ゲババックス乳剤25)	前 掲	日 本 化 薬
N C - 3 0 6 水和剤	未公開	日本カーバイド
A - 3 5 8 7 水和剤	GS-13529; 2-クロル-4-エチルアミノ-6- Tert, プチルアミノ-S-トリアジン 25% GS-14259; 2-メトキシ-4-エチルアミノ-6- Tert, プチルアミノ-S-トリアジン 25%	ガ イ ギ ー
A - 3 5 8 8 水和剤	GS-13529; 前掲 25% GS-14254; 2-メトキシ-4-エチルアミノ-S-トリ アジン 25%	ガ イ ギ ー
F - 8 2 (フレノック粒剤10)	2,2,3,3,テトラフルオルプロピオン酸ナトリウム 10%	ダイキン工業
D C P A ・ M T M C (TAW-2、ロンリーフ)	DCPA; 前掲 25% MTMC; トリール-N-メチルカーバメイト 5%	ト モ ノ 農 薬

生長調節剤

H C C - N A A	N A A 20%	保土ケ谷化学工業
カヤク-N A A	N A A 90%	日 本 化 薬
トルベス粉	N A A 20%	協 和 醸 酵
〃 液	N A A 20%	〃
T H - 6 5 6 液	1-(α -ナフタレンアセチル)-3,5-ジ メチルピラゾール 50.0%	武田薬品工業
S L M - 4 4 1	成分非公開	石 原 産 業
ラビートル乳	ジメチルドデシルアミンアセテート50.0%	日 本 曹 達
I T - 3 4 5 6 乳	フルオレン系 12.5%	日 本 農 薬
エスレル液	2-クロロエチルフォスフォニックアシ ッド 48.0%	2,4-D 協議会

1. DCPA・NAC

本年新たに登場した薬剤であるが、成分のDCPAとNACの混剤については、ワイダック乳剤として実用化している。水和剤にしたのは乳剤による製品の量が多過ぎること、びんの処分の手間をはぶくことを目的とし、これができればコストダウンができるのではないかということが最終目的であった。

効果については高濃度の効果は他の薬剤と大体同様であったが、低濃度は若干劣り、濃度の検討が必要であると判定した。とくに春草に対して効果が高かった。

2. DCPA・NAC+oil

ワイダック乳剤にoilを加え、成分量を減しても同等の効果が生じるのではないのかと考えたが、oilを加えても低濃度が高濃度の効果を生ずるほどのoilの添加効果はなかった。

そのため高濃度については実用性を認め、低濃度は検討を要すると判定した。

3. DCPA・XMC

DCPAを主剤とする除草剤であるが、ワイダック(DCPA・NAC)と同等の効果があがり、低濃度で若干力不足であるが実用性が充分認められたため実用可とした。

4. DCPA・MTMC

これもDCPAを主剤にした除草剤でありワイダックと同等であり、効果の発現その他もワイダックによく似ている。

5. サイプロミッド

この薬剤はミカンの茎葉に散布されても薬害が生じにくく、枯草効果のある選択的除草剤で、数年前より繰返し供試されてきたが、殺草効果が若干不足していたため、実用化が見送られてきた。本年はこれにガルフロップオイルの0.3%を添加して効果が高まり、実用性が認められた。実用化の条件としてo.i.1の加用が加えられた。

6. アメトリン

アメトリン剤のうちゲザバックス25は実用化しており、これを20%としてコストダウンをねらったものである。効果は25%に比して低濃度で力不足であり、殺草効果については成分量に比例したといえよう。

7. ターバシル

温州ミカンで実用化しているが、適用拡大のために供試された。この試験の範囲ではナツダイダイに対して所定の濃度ならば安全であるが、砂壤土での試験例が少ないため実用継続とした。

8. DCMU・ターバシル

DCMUにターバシルを混じて、ターバシルのコストダウンをねらったものであり、しかも薬害の軽減、効果の増大をも期待している。効果はプロマシルと同等であり、高濃度ではよかったが、低濃度では力不足であった。そのため

高濃度での実用性を認めたが、低濃度の効果については継続して試験を行うのがよいため、実用継続として判定した。

9. DCBN・ターバシル（水和）

ターバシルに広葉宿根草用除草剤DCBN（ブレフイック）を混用し、ターバシルによって増加する宿根草（ヤブカラシ、ヨモギ）などに効果を顕わさせ、一年草の防除とともに悪性宿根草の増加を抑えることを目的とした。効果は春草に対しては殺草力は強く、抑草期間も長すぎるくらいであった。夏草に対しては効果のむらが多く、春草におけるほどではなかった。宿根草（ヤブカラシ、ヨモギ）の混生園に対しては有効で、実用性を認めた砂壤土での薬害について確認する必要がある。

10. DCBN・ターバシル（粒）

これは前記薬剤を粒剤化したもので、宿根草混生園でのstop処理を目的として、宿根草のみの防除でなく、一年草の防除も兼ねて行なうことを目的とする。

効果は5月処理が高く、裸地栽培用として実用性がある。薬害の検討がなされた上で薬害がなければ、若木園の樹冠下ではよからう。6月、7月と時期が遅れるにしたがって効果が低下し、これはメヒシバが大きくなりすぎDCBNの効果が生じなかったものと考えられる。

11. TFP

これはイネ科、カヤツリグサ科宿根草に対して有効な除草剤として試験を行ない、ネザサ、ススキ、クマザサ、メダケ、チガヤ、ハマスゲに対し5月に地上部を刈取って処理すると有効で、次年度の発芽を抑制する。ハマスゲについては

処理時期の検討が必要である。また、昨年度一部でミカンに落葉を生じたことがあるので、本年春の落葉がどの程度か確認することと、それまではミカンの根元に処理しないことを条件とした。

以上が本年実用または実用継続になったものの説明である。継続あるいは中止になったもの

についての説明ははぶく。

B ミカンに対する生長調整剤

本年供試した薬剤については、第3表に示す。

第3表 ミカン用生長調整剤

薬 剤 名	判 定	内 容
H C C - N A A	実 用	既登録のN A A 剤と有意性なく同等認める
カヤク-N A A	実 用	〃
ト ル ベ ス 粉	実 用	〃
〃 液	実 用	〃
山本農業-N A A	実 用	〃
ヒ オ モ ン 液	実 用	〃 一部で落葉あり
特 農 - N A A	実 用	〃 〃
T H - 6 5 6	継 続	若木の全摘果，梅雨明け摘果剤として有望
S L M - 4 4 1	継 続	N A A と同傾向の摘果効果あり
I T - 3 4 5 6	継 続	5 0 p p m 3 0 日前後（満開後）に摘果効果あり
ラ ビ ト ー ル	継続？	落葉害が問題
エスレル立木処理	継 続	2 0 0 ~ 3 0 0 p p m 5 分着色処理で有効落葉が問題
〃 浸漬処理	実 用	2 ~ 3 分着色 5 0 0 p p m の浸漬で有効

このうち実用化になったものはN A A（ナフタレン酢酸）を主剤とする粉末、液剤などと、その他の生理活性をもつ物質とに大きく分けることができる。N A A を主剤とするものに対しては、原体のN A A - N a がミカン園用摘果剤として登録されているため、いずれの薬剤も問題なく実用の判定を受けた。一部の液剤（ヒオモン液，特農-N A A）においてミカンの落葉を助長した例があったので付記しておく。

個々の薬剤についてはN A A 関係をのぞいて、次の通りである。

1. T H - 6 5 6

N A A をアゾ化したものと考えてよく，N A A より吸収量多く，少量で同等の効果を上げうるのと，梅雨明けに処理して効果のある摘果剤として有望である。摘果効果は明らかでとくに若木の全摘果剤として使用できる。

2. SLM-441

本年新しく供試された薬剤で、本年は一部の県で効果を顕わし、一部では効果がなく、薬量は200ppm前後がよかった。

3. ラビトール

ホルモン剤以外の摘果効果を顕わす薬剤として興味をもたれたが、落葉害が多く、本年の試験で打切ることになった。

4. IT-3456

抑制剤として開発され、昨年から摘果剤供試されており、本年は時期と濃度に分けて試験を行ない、濃度は50～100ppm、散布日は50ppmで30日処理に効果が強く、来年度は50ppm～100ppm、15日、20日、

30日で試験を行なうのがよい。果実の果梗が肥大し、果形がやや小さくなる傾向を認めた。

5. エスレル

熟期促進剤として使用され、立木処理と浸漬処理に分けて供試された。浸漬処理について2～3分着色の果実を500ppmで処理すると完全着色をするが、収穫後処理のため食品添加物として取り扱われ、使用許可にならないことが明らかとなった。

立木処理については200～300ppmを5分着色で処理すると完全着色になるが10～20%の落葉を生ずるため、今後落葉害の軽減がこの試験の中心となろう。

以上の薬剤については試験をなお継続する必要を認め、ラビトール以外は継続の判定をした。

昭和45年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤

試験成績概要

農林省園芸試験場盛岡支場 久保田 貞 三

リンゴ園除草剤の検討会は去る1月23日東京（都道府県会館）に於て、また生育調節剤についてはこれまでの例にならって寒冷地果樹に

関する試験研究打ち合わせ会議翌日の2月24日盛岡市（岩手県共済会館）で開催された。検討会の結果は別表に示すとおりである。

昭和45年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤判定一覧表

除 草 剤						
対象	薬剤名	剤型	有効成分および含有率	判定	内 容	委託会社名
リンゴ園	ターバシル (シンパー)	水和	5-クロル-3-ターシャリブ チル-6-メチルウラシル 80%	実・継	15年生以上の成木園(150～300g/10a)若木園および透水性の大きい園については継(とくに連年使用について)	デユボン